

令和4年度 防災功労者表彰で 内閣総理大臣賞受賞



9月12日に今年度の防災功労者内閣総理大臣賞の受賞団体が発表され、草津市国際交流協会は「防災体制の整備」の部門で受賞しました。

本年2月の第26回防災まちづくり大賞での総務大臣賞受賞に続く栄誉です。



今年9月に草津市国際交流協会が外国人機能別消防団員の取り組みで防災功労者内閣総理大臣賞を受賞することができました。

KIFAの代表として総理官邸まで表彰式に行ってきました。また受賞の喜びを東京に住む元留学生団員と分かち合うことができ、感無量です。昨年度の総務大臣賞に引き続き大きな賞をいただくことができ感謝でいっぱいです。

2015年の発足当初からKIFAは団員補充とコーディネーター役として彼らを見守ってきました。今回の受賞はKIFAだけにとどまらず、彼らの所属や関係機関である消防署、危機管理課と過去に活躍し卒業していった多くの元団員達のおかげです。現在の団員とともに喜びたいと思います。今後はこの受賞を機に市民への認知を促し、地域で彼らを活用してもらえるようにサポートしていきたいと思っています。

● 草津市国際交流協会副会長 中西 まり子

令和4年9月に草津市国際交流協会が外国人機能別消防団員(以下、機能別消防団員)の取り組みで、防災功労者内閣総理大臣賞表彰を受賞されました。

近年の災害の激甚化を背景に、防災・減災の取り組みが各地域で高まりつつあります。

地域コミュニティの共助による救助・避難行動が重要との認識から、自力で避難できない高齢者や、避難に関する情報を得にくい外国人等の災害弱者の避難支援が地域課題として話し合われる中、当事者自らが支援する側として積極的な取り組みを進められ、草津市の地域防災力の一翼を担うまでに成長されたことは誠に頼もしい限りであり、深く敬意を表するものであります。

今後とも、機能別消防団員の取り組みのさらなる発展を目指して、貴協会と密に連携を図りながら、草津市の安全・安心のまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

● 草津市危機管理課 間宮 啓太

私が草津市機能別消防団に入った理由は、留学生として、草津市に在住している外国人の方を支えたいと思ったからです。今年の八月に福島県へ行ったとき、防災について勉強してから、災害が起こったとき、誰かが避難地に誘導するのがなかなか大事だと思います。それがきっかけで、草津市の外国人の方の防災を支えるために、機能別消防団に入りました。これからも機能別消防団のことを立命館大学の留学生に紹介したいと考えています。そして防災キャンプができればいいと思っています。立命館大学の留学生だけではなく、草津市の外国人技能実習生にも紹介したいと思います。

機能別消防団員 チョウ キンピョウ(中国)



機能別消防

現在の隊員の方よりの機能別消防団員に

私の名前はホースアングエンです。ベトナムから来ました。私は仕事が忙しいのですが7年前の初めから機能別消防団員になりました。

日本は地震が多い国。最初私の目的は防火や救命救助講習でした。地震があれば自分の命を守ることができます。

でも色々防災学習のイベントに参加して自分の命を守るだけでなく家族や友人や他の人の命も守ることができると思いました。

日本で外国人がだんだん多くなっていますので外国人が防災のことを理解するのは大事だと思います。

現在外国人機能別消防団員たちはベトナム人、中国人、フィリピン人だけなので他の外国人を募集しています。

機能別消防団員 ホースアングエン(ベトナム)

1 2011年東日本大震災をきっかけに私のボランティア精神が湧いてきてボランティアとして行きたかったのですが叶いませんでした。その時、私は県庁で通訳/翻訳者として働いていました。いろんな行事の中で中西さんと知り合いました。ある日、草津市役所で行われる多言語防災講座に中西さんに誘われました。その後に草津市危機管理課から機能別消防団員の説明を聞いて、これだ!と思ってボランティアとして参加する事にしました。

2 苦労した事はないです。良かった事はいっぱいあります。例えば、防災に関していろんな事を学んで、勉強になりました。防災訓練に関して自分の知識を高めました。消防訓練礼式は国によって違うと分かりました。消防の制服を着られて嬉しいです。

3 2019年草津市渋川学区の避難訓練で、日本語が分からない外国人が避難場所に居たら通訳者として案内をしました。2017年de愛ひろばで草津シェイクアウト訓練で duck, cover, hold (身をかがめる、頭を守る、つかまる)を学びました。

4 まずは自分が住んでいる地域の避難場所はどこにあるかを確認しましょう。テレビ、ラジオ、SNSの情報を必ずチェックしましょう。防災セット持ちましょう。訓練に参加しましょう。災害の時に落ち着き行動することが大事です。

機能別消防団員 坂 ジョセフィナ(フィリピン)



現在、防災は社会的関心の高い問題の一つとなっており、財産や人命の安全を確保する上での最優先事項です。防災の準備や避難所の確保も必要ですが、いざという時に正確に情報を得たり、自ら積極的かつ迅速に対応できるよう、一人ひとりが防災に関する基礎知識を身につけておく必要があると思います。

私が消防団員になったのは、喜んで色々な活動に参加して自分自身と同じ国の周囲の人を守ることができるからです。そしてそれを誇りに思います。

また消防団に参加すると色々な国の人々と交流したり文化を勉強したり、日本での生活に自信がもてます。

機能別消防団員 Bui Minh Tri(ベトナム)

団員の想い

対する想いを語っていただきました。

団員の言葉



まず機能別団員になるきっかけは、中西先生からのお誘いで防災知識を身につけたいと思ったからです。中国では、災害があまり起こらないので、防災という言葉はあまり耳にしません。そういうわけで日本に来て、防災の話聞いた時凄く興味深いと思いました。

また、会社では5年に1回非常食ケースの入れ替えがあって、中に5年間保存ができるパンと水、あと携帯トイレ、カイロなどさまざまなグッズが揃って、凄く感動しました。補足すると、保存食のパンはなかなか美味しく、びっくりしました。

尚、消防団員になり、消防訓練礼式、消火器の使い方、救命などの訓練を習い、色々勉強になりました。消防団員として誇り高く思っています。

最後、日本に来て間もない外国人のため役に立つアドバイスをしたいと思います。

機能別消防団員 朱琳(中国)



機能別消防団員
TRAN QUOC THINH (ベトナム)

2015年の発足の時からのメンバーの劉芳彤です。今までの7年間いろいろな活動に参加しました。立命館大学で行われた滋賀県消防大会に七夕フェスティバル、南消防署での多文化防災訓練に定期訓練と交流会。さらに渋川小学校の多文化避難訓練とKIFA日本語クラスでの防災学習などたくさんあります。

防災の基本的な知識は日本人だけでなく誰もが持っている事が望ましいです。なぜなら災害発生時にその知識を活かして対処でき被害を最小限に抑える事ができるからです。特に災害が少ない国から来た人は知識が少なく不安に感じます。地震が来たとき何を持ってどこに逃げるか避難場所が分からない、言葉も通じない、どうやって連絡すればよいの？これからはもっと多くの外国人に防災の知識を広める事がとても重要と思います。

私は外国人機能別消防団員になったことはとても光栄です。そして中西先生から誘われたことはありがたいです。

機能別消防団員 劉芳彤(中国)



草津市国際交流協会

第1回 日本語スピーチ大会

9月11日(日)に草津市立市民交流プラザで、
草津市国際交流協会主催第1回外国人による日本語スピーチ大会が開催されました。
初級の部に2名、中上級の部に9名の参加者があり、
それぞれの熱い想いを語っていただきました。



中上級市長賞のエマさん

日本にきて6ヶ月後、友達がKIFAのこと紹介してくれました。立命館大学の国際プログラムに入っているのですが、なかなか日本語で話す機会がなかったのです。その必要もないと学部の皆が言ってましたが、私は日本のことをわかってほしいと何のためにわざわざ日本まで来たのかと自分に疑問を言い続けました。自分で日本語の単語と文法を覚えながら、毎週KIFAの教室で話す練習をしました。スピーチ大会はこれまでの努力がどこまでなのかを試す機会です。それに、日本に留学すると言うのはやっぱり、日本のことか、日本人のことか、思うことがたくさんあると思います、良いも悪いも。日本人も外国人も同じ人間です。言葉で伝えないと何もわからないです、分かち合えないです。今回のスピーチ大会に参加できて本当に嬉しいです。



● 立命館大学大学院
エマ クルニア アミンニサ
(インドネシア)

初級市長賞のスリさん

このコンテストに参加するという栄誉を与えていただき、誠にありがとうございました。

初級で優勝できたことは、嬉しくて感無量です。これは、私が日本で過ごした3年間の中でとても特別な瞬間であり、忘れられない思い出です。

日本語でスピーチができるなんて、ましてや受賞できるとは思いもしませんでした。

初めて日本に来た時、言語と文化に本当に苦労しました。しかし、草津市国際交流協会 (KIFA) に行き、多くの外国人や日本人の友達に会ってから、状況は変わりました。私は勉強と生活の両方で彼らに大いに助けられました。特にひろば日本語クラスの素敵なボランティアの方々は、私に日本語を教えてくれたり、世話をしてくれたりしました。彼らは私の日本での第二の家族のような存在です。この賞は、彼らの多大なサポートのおかげです。



● 立命館大学大学院
グエン ティ トゥオン
(ベトナム)



夏期

日本語教室

草津市国際交流協会の日本語教育の新しい取組として、今年度初めて有料での夏季日本語教室を開催しました。草津市国際交流協会の日本語ひろば「ぎずな」の夏季休暇中での開催となり、新しい受講者の開発にもなる取組です。

日本に住む外国人が日本語を学びたいと思った時、選択肢の一つとして地域の日本語教室があります。草津市でも多くの外国人が、ボランティアスタッフや同じ目標を持った仲間たちと交流しながらそこで日本語を学んでいます。私も日本語教師の仕事やボランティアで勉強のお手伝いをすることがありますが、一人一人の学習目的やレベルなどはそれぞれ違ってきます。

日本語を学ぶ目的の中でも特に困りごとが緊急だと感じるのは仕事に関する日本語だと思います。言葉の壁により「就職ができない」「就職ができて日本人と上手くコミュニケーションがとれない」等の悩みを直接聞くことがあります。しかし彼らが働くための日本語を学べる機会はそう多くはありません。

今後も地域の一員として外国人を迎えることが増えていく中で、そうした学習環境を今から整えていく必要があるのではないかと考えます。

そこで、KIFAの活動を通して知り合った日本語教師やボランティアスタッフに声をかけ、今自分たちができる形として仕事の日本語に特化した短期日本語教室を企画しました。

● 草津市国際交流協会会員 安居真菜美



日本語講座のうちの1回は、ビジネスマナー講師としてKIFA理事の内山礼子さんをお招きして、面接の受け方やビジネスにおいて大切な考え方を教えてもらったり、仕事の場面で起きた文化や価値観の違いによるトラブルの事例について解決法を話しあったりしました。

日本社会のやり方を押し付けるのではなく、トラブルはどうして起きたのか、どうしたら防ぐことができたのかなど、お互いの考え方を話しあうことで、理解を深めてもらえたと思います。



こうしたビジネスマナーや日本の習慣に関する知識、対処法などを事前に得ておくことは、日本の職場に慣れる近道になります。日本語学習と合わせ、これからも必要な方に提供していきたいと思います。



● 草津市国際交流協会会員 北村亜耶

アルバイトなどの職場で、指示を受けたとき、体調が悪くて仕事を休むときなど、社内で使う具体的な表現を中心としたレッスンをしました。ロールプレイでお互いに役割を交替し、楽しく練習できました。働く現場はどうしても慌ただしく、職場で使う日本語を改まって教わったり、ゆっくり質問できないこともあるのではないのでしょうか。ビジネス日本語やマナーは一度覚えておくと便利で自信もつくと思います。

また、今回の講座で好評だったのは、最終日にKIFA広報部会長でもあるスマイ印刷の石光社長にゲストとして来ていただいたことです。受講者の皆さんには今までの経験と今後したい仕事内容についてのスピーチを準備、発表していただきました。社長にはコメントと実際に採用面接時に特に注目するところなどを具体的にお話いただきました。受講者はとても真剣なまなざしで聞いておられました。

● 草津市国際交流協会会員 森すみれ





やさしい日本語 草津市職員向け

研修会

今年度も草津市職員向けの「やさしい日本語」研修会が、10月12日に開かれました。船見先生の講義のあとのワークショップに、草津市国際交流協会の5名の方がファシリテーターとして参加しました。

令和4年10月12日9:30～11:30、「やさしい日本語職員研修会」開催、29名の参加者がありました。内容は(1)草津市における多文化共生社会実現の必要性についての講演(講師中西まり子氏、鶴田真理子氏)、(2)やさしい日本語研修とワークショップ(講師船見和秀先生)は「やさしい日本語とは」、「やさしい日本語の作り方・話し方のコツ」をわかりやすくご教示下さいました。又、ワークショップではファシリテーターとしてKIFAのボランティアの私たち5名が各グループに一人ずつ入ってやさしい日本語をどのように実践するのかを市職員の方々をサポートし模擬実践をしました。今回、実際の窓口対応の方々と参加できたのは良い経験になりました。

● 草津市国際交流協会会員 津田幸子



じんけん ミニフェスタ

9月3日

9月3日(土)に草津イオンモールで、滋賀県人権政策課が主催する「じんけんミニフェスタ」が開催され、KIFAは昨年と同じ「外国人によるパスポートラリー」で参加し、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。



안녕하세요
你好
Hello!
Bonjour
ciao



9月3日、イオンモール草津において「じんけんミニフェスタ」が開催されました。KIFAは、留学生と交流しながらオリジナルのノートをつくるクラフトと、パスポートラリーを実施しました。クラフトでは、子どもたちが留学生と協力しながら、お手本を参考にノートの表紙と裏表紙にシールを貼って、オリジナルのノート作りを楽しみました。また、パスポートラリーでは、子どもたちがパスポートラリーカードを持って各ブースをまわり、容器の中に隠されたものを探す海外の遊びである「アイ・スパイジャー」や、英語でのじゃんけんを、留学生と一緒に体験しました。子どもたちは留学生に母国語で名前を書いたり、あいさつを教わったりして、異文化交流を楽しみました。

● 草津市国際交流協会会員 川端 美香

やさしい日本語サロン

前期の
活動



今年度も4月より南草津のUDCBK(アーバンデザインセンターびわこ草津)で毎週火曜日
に開かれている「やさしい日本語サロン」の前期の活動内容です。

入国制限が緩和され、やさしい日本語サロンに足を運んでくれる外国の方が増えました。嬉しい出会いがある一方、卒業などの理由で仲の良かった方々が帰国してしまい寂しい別れもありました。

上半期のやさしい日本語サロンは、引き続きコロナの感染対策をしつつ、たくさんの企画を実施しました。

6月にはクラフトのワークショップを開催、他団体とのコラボ企画もあり、外国人向けの講座を開きました。

ワークショップは、アジサイの季節に行われました。各国のお花の話をしなが、アジサイの造花とビーズでキーリングを作りました。

京都を中心に活動中の「外国人女性の会パルヨン」とコラボ企画を行いました。情報共有や情報収集で暮らしに役立つスマホアプリ「Instagram」について、代表のハッカライネン・ニーナさんに使い方講座をしていただきました。



国際理解講座「ミャンマーDAY」

8月28日(日)に草津市市民交流プラザで国際理解講座「ミャンマーDAY」が行われ、立命館大学留学生のトゥエイさんがミャンマーの紹介、奥さんのインさんのミャンマー料理教室が開かれ楽しい時間を過ごしました。

8月28日(日)に国際理解部会主催「ミャンマーDAY」が開かれました。イベントは「英語でミャンマー紹介」と「ミャンマー料理教室」の二部に分かれて開催されました。

まずは「英語でミャンマー紹介」を通して、神秘的な文化や未知の部分もたくさんあるミャンマーについて詳しく教えてくださいました。充実した内容で個人的に思っていたイメージより国が美しく、興味深くお話を聞かせていただきました。

次に「ミャンマー料理教室」は、専門店から取り寄せた本場の食材を使って一緒に作ってみようということですが、コロナ対策のためその場で食わずに持ち帰りという形になりました。ミャンマー料理といえば「モヒンガー」を思い浮かべる方もいるでしょう。今回は、定番の「モヒンガー」(米粉の麺)に「ラベットウ」(野菜サラダ)と「モンリンマヤー」というたこ焼き風のおやつを作りました。

珍しくて素敵なお料理は、参加者たちと力を合わせて作りました。今回は皆さんと一緒に食べれないのが少し残念なん



ですが、帰宅して教えてもらったように、あるいはオリジナルにアレンジするなり料理の美味しさだけでなく、料理する楽しさも勉強させていただきました。

● 草津市国際交流協会国際理解部会副部長 卓 慧宜(台湾)



8月夏休み中は、留学生向けにうちわ作りのワークショップを、また、子ども向けにベトナムイベントを開催しました。うちわ作りは、筆ペンや絵の具を使って、好きな絵や言葉をうちわに描きました。ベトナムイベントは、ベトナム出身のタオさんが講師となり、あいさつや、食べ物、伝統遊びなどを紹介くださいました。

月に1回のUDCBKとの共催では、様々な国の駅周辺事情をはじめ、カフェなどまちづくりをテーマに話しました。まちづくり協働課と資源循環推進課との四者共催では、ごみの分け方、出し方についてミニ講座を開きました。

特別企画がないときは、雑談や、その時期の行事などについて話をしています。来日して間もなく、やさしい日本語でも理解が難しい方には、日常生活ですぐに使える日本語を教えています。

● 草津市国際交流協会理事 オラバン(タイ)



びわこ草津帰国生支援ネットワーク

滋賀県での帰国子女の増加に対する体制作りのきっかけを作る活動として、今年度より活動を始められた「びわこ草津帰国生支援ネットワーク」の活動の様子を紹介します。

第1回びわこ・草津帰国生支援ネットワークへの協賛イベント「キッズサマーフェスタ2022」の開催。

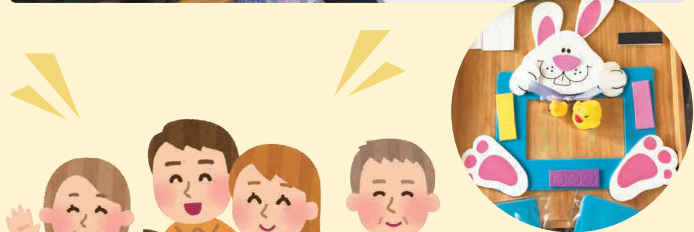
草津市とその周辺に帰国する海外滞在家族の増加にともない、帰国生の転入も増えています。海外での生活が長いために日本での習慣や言語の問題でとまどいを感じている子供も少なくありません。その子供たちと親を支援する団体びわこ草津帰国生支援ネットワーク(BRSN)が本年5月に草津市に設立され保護者向けの交流会を月一回程度実施されています。

このたび、8月6日にはじめての子供向けイベントがde愛広場で開催されKIFAよりかわいいうさぎのフォトフレームキットとくじ引きの景品を提供しました。

当日は、17名の参加で、夏休みのひとときを帰国生とその家族、地域の人びとと一緒にクラフトをしたり、ズンパを踊ったりと楽しみました。

KIFAでは、多文化共生の観点からも、これからもこの帰国生の支援活動を応援していきたいと思えます。

● 草津市国際交流協会理事 内山礼子



お願い 年会費納入のお願い

平素より、当協会へのご理解とご協力を賜り心よりお礼申し上げます。当協会の活動は、みなさまからの年会費をもとに運営させていただいております。

KIFAの会員の方で今年度の年会費を未納の方は、下記のとおりご納入くださいますようお願い申し上げます。

- 年会費 : 【個人・団体等】2,000円/1口 【法人等】10,000円/1口
※口数は、一口以上で任意です。※当協会の規定により、年会費を2年以上滞納した場合は自動退会となります。
- 納入期日 : 2022年12月30日(金)
- 納入方法 : 以下のいずれかの方法にてご納入ください。
 - ・当協会事務局窓口にて直接ご納入
 - ・以下のいずれかの金融機関へのお振込み

口座名	草津市国際交流協会 会長 南 啓次郎		
口座番号	滋賀銀行 草津市役所出張所	普通口座	012384
	JA レーク滋賀草津支店	普通口座	0585996

※金融機関でのお振込みには、所定の手数料がかかります。

退職の挨拶 (草津市国際交流協会での9年9か月を振り返って)

9年前に草津市国際交流協会の事務局長に就任した時は、これだけ長くお世話になるとは思ってもいませんでした。会社を退職してから1年間、滋賀県立大学大学院の社会人コース「近江環人地域再生学座」でまちづくり、コミュニティ作りを学んでいましたので、事務局長として協会の活動範囲を広げ、新しい試みに挑戦できるなど思っていました。

私が事務局長になった時に、草津市国際交流協会も20年間会長を務めておられた方が退任され、新しい方が会長に就任されました。最初に取り組んだのは、途絶えがちになっていた姉妹都市・友好都市との交流再開でした。姉妹都市ミシガン州ポンティアック市と香川県観音寺市、友好都市上海徐匯区、群馬県草津町それぞれの都市間交流の再開に取組み、それぞれの都市に草津市より訪問団を派遣し、またそれぞれから使節団を受入れました。しかしコロナ禍の重なりもあり、3年間交流は途絶えている状況であり、その再開が期待されます。

その後、2015年から3年間文化庁より助成金を頂き「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」を実施したことが、草津市国際交流協会が多文化共生に向けて大きく舵を切った事案となりました。その活動より生まれた事業として、現在も毎週火曜日の午前中に南草津のUDCBK(アーバンデザインセンターびわこ草津)で

開催している、「やさしい日本語サロン」があります。多文化共生部会の事業としては、その後全国青年司法書士協議会と協働で「身近な法律ハンドブック」の英語版、ベトナム語版、スペイン語版、ポルトガル語版とやさしい日本語版の発行があります。又、日本語教室での防災教育を契機に、災害時に災害弱者の外国人が、支えられる側から支える側にとの発想で、全国で初めての「外国人による機能別消防団員」の発足とその活動となり、令和3年度に「第26回防災まちづくり大賞の総務大臣賞」を、令和4年度には「防災功労者表彰内閣総理大臣賞」の受賞に繋がりました。

また、国際理解部会での酒蔵コンサートの楽しい思い出、広報部会の活動では、会報誌の記事集めの苦労等が思い出されます。

このような長い期間、大過なく任務を終えられるのは皆さんからの沢山なご協力、ご支援の賜物と思います。本当に有難うございました。これからは一会員として、草津市国際交流協会の活動を応援していきたいと思えます。イベント等にも顔を出したいと思えますので、その時は宜しくお願ひします。

新事務局長のもとで草津市国際交流協会の益々の発展を祈念しています！

● 草津市国際交流協会 事務局長 浦 幹夫

